

## 研究協力のお願い

この研究は、大阪医科薬科大学 研究倫理委員会にて審査され、研究機関の長の許可を受けたくうえで実施しております。ご理解・ご協力のほど、よろしくお願い致します。

大阪医科薬科大学 医学部 放射線診断学教室

### 記

研究の名称	胃癌術後の定期観察における CT 検査の被曝軽減を目指した撮影範囲の最適化に関する検討
対象	2014 年 1 月 1 日から 2019 年 12 月 31 日までの期間に本院で胃癌としてがん登録された患者さんの胃癌術後の定期観察における CT 検査の被曝軽減を目指した撮影範囲の最適化に関する検討に関する研究に利用いたします。本学では、400 例を予定しています。
研究期間	研究実施許可日 ~ 2025 年 12 月 31 日
試料・情報の利用目的及び利用方法	利用目的：日本における悪性腫瘍（がん）の手術後の経過観察には再発や転移の検索を目的としてしばしば CT（computed tomography）検査が行われます。従来、各診療科からオーダーされる CT 検査では、診察時の再発兆候の有無や手術前のがんの病期にかかわらず、定期的に胸部から骨盤まで体幹部全体の広範囲を撮影されていることがほとんどです。しかし、CT は放射線被曝を伴う検査のため、その撮影範囲は必要最低限に絞ることで被曝低減に努めるという「最適化」が必要と考えられます。胃癌の術後の CT 検査に関する海外の研究では、胸部への単独転移は非常に少ないため、胸部領域をルーチンに撮影範囲に含める必要性は低いとされています。しかし、それらの研究における対象症例数は限られており、さらに信頼性の高い研究が望まれます。そこで本研究

	<p>の目的は、当院で過去 6 年間に胃癌の手術を受けた患者さんを対象に、手術前の病期および手術後の診察所見や腫瘍マーカーの経過と、定期的に体幹部全体を撮影された CT 検査で認めた再発や転移の部位や頻度を後方視的に対比することにより、術後の定期観察の CT 検査においてルーチンに胸部領域を撮影範囲に含める必要があるかどうかを検討することです。</p> <p>利用方法：患者さんの情報を、当院の診療記録から収集し、抽出した情報を基に統計解析を行います。抽出する診療情報は、診療情報と同様に厳重に管理され、個人を特定できる情報が漏れることはありません。研究結果は、個人を特定できないように対処したうえで、学会や学術誌で発表される予定です。本研究は日常診療を行った後に情報をまとめる形で行われる研究（観察研究）ですので、参加することによる直接的な利益や不利益はありません。また、本研究へ参加することで、新たに発生する自己負担はありませんし、謝礼金などありません。</p> <p>対象者の方（あるいは代理人）の申し出により、他の対象者等の個人情報保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、研究に関する資料を入手や閲覧できますので、ご希望される際は、下記の問い合わせ窓口までご連絡ください。</p> <p>各共同研究機関から主管機関である大阪医科薬科大学には、研究で利用する情報から個人を特定できる情報を削除し、匿名化された状態で提供されます。</p>
<p><b>利用し、又は提供する試料・情報の項目</b></p>	<p>情報：検査データ（CT 画像）、診療記録等</p>

## 研究者名

### 研究責任者】

放射線診断学

助教（准）

松谷 裕貴

## 参加拒否の申し出について

ご自身の診療情報を研究に利用させて頂くことに対する問い合わせ、参加拒否を申し出たい場合は、下記の連絡先までお願いいたします（対象者の代理人からの申し出も受付いたします）。参加拒否の申し出をされた場合は、研究の対象から削除し、研究利用をいたしません。しかしながら、研究結果が出た後の参加拒否の申し出については、研究の対象から削除することができかねますので、予めご了承ください。

## <問い合わせ窓口>

### 【研究機関】

〒569-8686 大阪府高槻市大学町2番7号

大阪医科薬科大学 放射線診断学教室

担当者 松谷 裕貴

連絡先 072-683-1221（代） 内線（2307）

# 研究参加拒否書

大阪医科薬科大学 学長

大阪医科薬科大学

担当者 松谷 裕貴 殿

課題名	胃癌術後の定期観察における CT 検査の被曝軽減を目指した撮影範囲の最適化に関する検討
-----	---

私は、上記研究への参加について検討した結果、研究参加を拒否いたします。

年 月 日 対象者 住所

氏名（自署）